

## 第1回佐久平浅間小学校通学区検討部会 会議概要

日 時	令和7（2025）年8月21日（木）午後6時30分～8時30分
場 所	佐久市役所南棟3階大会議室
委員出席 (敬称略)	東城公人、山崎哲也、小井土久志、山口智之、井出幸裕、荻原文雄、柳澤孝典、大井崇洋、清水茜、吉岡謙、金澤俊喜、原田智恵美、山口裕美、小嶋秀文、山口元気、井出忠臣、北山浩一、白鳥貴文 (出席 18名)
事務局	神津教育長、平林学校教育部長、藤巻学校教育課長、小林主幹指導主事、油井総務係長、井出学務係長、草間教育施設課長、木内教育施設建築係長、学校教育課小林、岩崎、三石

### 会議事項

(会議に先立ち委嘱書の交付)

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 佐久平浅間小学校通学区検討部会について
- 5 部会長・副部会長の選出 ⇒井出忠臣部会長、小嶋秀文副部会長を選出
- 6 正副会長あいさつ
- 7 会議事項
  - (1) 中間報告について
  - (2) 通学区の見直しに係る各委員の考え方について
  - (3) 今後の進め方について
  - (4) その他
- 8 閉会

### 委員からの主な意見（要旨）（「⇒」：事務局からの回答）

#### <（1）中間報告について>

(質問・意見等なし)

#### <（2）通学区の見直しに係る各委員の考え方について>

- ・中間報告の資料編の56ページ、推計結果のまとめについての意見の中に、「子どもたちが多様な学びをしているときに、あんな窮屈な生活で良いのかなという心配や、申し訳ないという思いを持っている」という意見がある。 本日は、それぞれの地区の保護者の代表に来ていただいているが、佐久平浅間小学校の児童数が増えてきていることについて、皆さんどんな感想をお持ちなのか最初にお聞かせいただきたい。

- ・佐久平浅間小学校を作った時にも人口推計のようなことは検討されていたはずであり、通学区を見直すことは必要だと思いつつも、なぜ今、このような状況になってしまっているのか、というのが率直な感想である。佐久平浅間小学校の児童数が多いことにより、PTAの負担が大きくなっているので、対策は色々と考えないといけないと思う。
- ・児童館を毎日利用しているが、子どもの数に対して狭い。子どもたちにとって危ない場面もあり、利用している子どもも多いので、見直してもらいたい。
- ・私は団塊ジュニア世代で、その頃は1クラス40人学級だったが、それでも窮屈だとは感じていなかった。児童数がどんどん増えていたので、プレハブ小屋で勉強するような学年もあったが、その中でものびのび生活をしていたので、今の佐久平浅間小学校が何をもって窮屈なのか、正直実感が沸かない。娘が現在小学校6年生で、このことについて話を聞いてみたが、娘としても窮屈の定義が分からぬと言っていた。  
授業参観に行けば、確かに教室自体は狭いと感じるが、私の小学校時代と比べて様々な目的の教室が整備されているので、それがどのようにこの評価につながるのか正直理解できない。  
コンセンサスを得るという意味では、世代ごとに受け止め方が違うと思うので、丁寧な説明をした方が納得感を得られるのではないかと思う。
- ・私もかつては1学級46人というクラスを受け持っていたので、言われていることはよくわかる。「窮屈」という意味は何なのかということは、共通理解としていかないといけない。
- ・授業参観で学校に行った際、子どもがとても多いとは感じたが、窮屈でかわいそうだと感じなかつた。小学校6年生、4年生、3年生の子どもがいるが、子どもから不満が出たこと今のところはない。ただ、保護者の目線からすると、行事の時に駐車場がなかつたりすることは不便である。
- ・今は、昔と違って、本当に一人ひとりの子どもの属性に合った学習のしかたが重視されていて、特別支援学級でも一人ひとり勉強の進め方が違う。特別支援学級の子どもの数が増えてきていく中で、教室数が足りなくなってくるのではと思う。また、通常学級の子どもでも、気持ちが興奮してしまったときに、隣の部屋でクールダウンをするような子がいて、教室数が足りなくなると、そういう場所がなくなってしまい、そういう子はすごく居づらくなってしまう、そのようなことをこの意見を言った人は考えたのではないかと思う。
- ・私も、そんなに窮屈な生活なのかは疑問だと思う。子どもが3人兄弟で、下の子が今小学6年生だが、小学校については窮屈だという話は聞かない。ただ、中学校に上がると、「小学校の方が良かった」と文句が出てくる。中学校の方が施設の老朽化が進んでいたり、教室が狭かったりといった話があるので、小学校ではあまり窮屈な生活はしていないのではないかと思っている。一方で、子どもの数が多いので、6年間あっても同じクラスにならない子がいるなど、友達関係が

固定的になるようなことはあるのではないかと思う。

- ・学校を運営している中で、このような点が窮屈だと感じられているのではないかということについて、校長からいかがでしょうか。
- ・現在の学級数は 25 クラスである。一方で、中間報告の中では、最大で 30 クラスを想定しているが、実際には空き教室があるわけではない。30 クラスを用意するとなると、被服室、外国語教室、少人数教室、SDC や生活科室等の諸室が全てなくなってしまうということになる。被服室がなければ教室でミシンを使うこととなったり、外国語の先生がそれぞれの教室に出向いて授業を行ったりするようになる。また、少人数教室がなくなれば、せっかく 4 クラスのところを 5 クラスでできますよ、という人数の加配をもらっていても、4 クラスでやらざるを得なくなる。そのような窮屈さがこれから生じてくるということだと思う。
- ・コロナ禍以降、学校にタブレットが入ってくるようになってから、授業の仕方ははっきり変わった。これからは、誰一人取り残さない教育が進んでいく。子どもの数が減ってきてている状況で、本当に一人ひとりをこれから大事にしていかないといけない。1 学級に 45 人の子どもがいた私たちの時代には、十把一絡げの教育をせざるを得なかったこともあるが、今はそのような教育はしないということが前提となっている。そのような中では、色々な教室がないと、子ども達の特性に合わせた教育を進めていけなくなるだろうというのが現実の状況である。  
それでは、次に区長さんからご意見をお願いします。
- ・佐久平浅間小学校は非常に人気のある学校で、佐久平浅間小学校に通うにはどこに引っ越したらいいかという相談も多い。窮屈ということについては、まず、グラウンドが狭く、子ども達が十分に活動できないと感じる。「開かれた学校」と言うけれど、一般の人が利用できるようなスペースはない。また、学校の職員の皆さんの駐車場が狭くて対応できていない。教室が狭いという部分もあるけれど、実感としては敷地の狭さを実感として感じている。
- ・学校には 65 台の駐車スペースがあるが、職員が 64 人いるので、来客者用の駐車場は 1 台分しか空かない。やむを得ず、本来は駐車場ではない場所に職員の車を入れてスペースを空けている状況。
- ・学校が窮屈かというよりも、登下校の問題がある。低学年の子どもも歩いて通学しているが、本当に朝早く家を出発しなければならない。親御さんも、子どもの通学に関しては心配をしている。住吉町からすると、佐久平浅間小学校は遠く、岩村田小学校の方が近い。登下校や交通安全についていえば、岩村田小学校の方が良いかもしれないが、地区の親御さんの意見もあることから、我々は一概に意見を言うことができないということもある。岩村田小学校へ戻ることが悪いことではないと思うが、子ども達や親御さんの意見も大事だと考えている。

・先日の浅間地区の市政懇談会の中で私が発言した主旨は、この問題のあり方や内容ではなく、進め方がまずいと言ったもの。中間報告が3月にまとまる前の2月14日に、新聞で通学区の見直しについて新聞で大々的に報道されていた。地域に話を通す前にそのようなことが表に出るようなやり方がまずい。

中間報告の資料編の57ページに、検討委員会の委員から、今後の進め方について、まず理想とする教育のあり方や教室数を話し合った方が有効な時間の使い方だと思う、との意見があったが、教育委員会は、「理想とする教育のあり方も大切だが、教室が足りなくなってしまい、子どもたちの教育環境を確保できないことも大きな課題と考えている」と回答していた。佐久市に住んでいる小学生や中学生が下手をすれば義務教育を受けられなくなる可能性への現実的な対応として、通学区の見直しをするという方向性自体は間違っていないと思っている。

岩村田小学校の校長先生に、仮に佐久平浅間小学校から200人程度の児童が編入されたときに、それだけの教室があるかということを聞きたかった。受け入れる側の体制が整っていなかつたら、編入される子どもたちがかわいそうだと思う。200人程度の児童が編入されれば、クラス替えも必要となってくる。また、駐車場や職員室を用意できるかの問題もある。そのようなことを全部含めて考えていかないといふのは進んでいいと思う。

・佐久平浅間小学校の子ども達と、岩村田小学校の子ども達、最終的にはどちらも気持ちのいい状況になっていなくてはいけない。そういう意味で、両方の学校で望ましい環境が維持されていくかどうかということは、細かく吟味をしていかなければいけないことであり、それもこの会の大変な役割だと考えている。

・この中間報告をもっと勉強して、地域の保護者の方とこの問題についてよく対話をして考えていきたいと思う。

・兄弟の中で、兄が佐久平浅間小学校に通っているけれど、新しく小学校に通う弟は岩村田小学校になるなど、1つの家庭の中で通う学校が分かれてしまうことがないか心配している。

学校が分かれてしまえば、親御さんが両校の運動会などのイベントに参加するのに苦労をするのではないかと思う。子どもを編入すること自体は良いけれど、その際は兄弟が分かれてしまわないようにしてもらいたい。

・常田区は、佐久平浅間小学校と中佐都小学校に子供たちが分かれて通学しているので、区長としても両校の行事に参加する負担がある。また、佐久平浅間小学校に通っている子どもの保護者にはPTAの組織がない。区としては、中佐都小学校に通っている子どもと、佐久平浅間小学校に通っている子どもをそれぞれサポートしなければいけないが、佐久平浅間小学校はPTAがないのでサポートが難しい。学校の問題ももちろんあるが、地域で子どもを育てるというときにそのような不便が起きているということをお伝えしたい。通学区の見直しについては、子どものことを第1に考えていかないといけないことはもちろんだが、この人口推計が本当に大丈夫なのかという不安もある。中佐都小学校の方で、自治会地区別の子どもの人数を教えてもらっている

が、平塚の子どもの数が非常に増えていて驚いた。この開発は常田赤岩線に関連するものではなく、中佐都バイパスの近辺に家がどんどんできている。このことが推計に反映されていないのではないか。常田赤岩線の開発の影響は、ほとんどが佐久平浅間小学校に影響すると思うが、中佐都小学校は別の要因で子どもの数が増えるのではないかと思う。市には改めて推計について確認してもらいたい。

- ・今の子どもに対する教育が、より濃いものになっていることはとてもいいことだと思う。そのような中で、「多様な学び」を実現するためには、通常学級教室以外の教室についてもキープし、余裕のある教室づくりをしてもらった方が良い。また、佐久平浅間小学校の南から新幹線までの水田について、佐久平駅西地区の開発の動きがあるので、時期は分からぬが、かなりの人口流入が見込まれると思う。そのことについては推計において見込んでもらいたい。
- ・住吉町から小学校に通うとき、昔は岩村田商店街をまっすぐ下って交差点の横断歩道を渡ればもう小学校だった。しかし、今は佐久平浅間小学校へ通うために非常に複雑なルートを通っている。通学路の安全が大事だというのは分かるが、なぜこんなことになっているのか。佐久平浅間小学校ができてから10年で、子どもの数がここまで増えてしまったことについても、事前に調査等はしていなかったのか。見直しの時期が来ており、また、市の想定よりも早く見直しを行うべきではないかと考えている。
- ・佐久平浅間小学校と岩村田小学校は、分離当時ほとんど同じ児童数でスタートしたという中で、子どもの数が増えていること自体は喜ばしいことであると思う。佐久平浅間小学校だけでなく、岩村田小学校も、中佐都小学校も増えてきているとなると、浅間中学校のことが心配になってくる。通う学校を変えるには、一番は子どもの精神的なケアが必要になってくると思うが、その後は浅間中学校が窮屈だという問題も同時に進めなければいけないと思う。そこで、このような時にどのような対応がなされたのか、事例を教えていただきたいと思う。
- ・浅間中学校については本部会の議題とは別のことになるが、本会の方には伝えたいと思う。
- ・それぞれの皆さんに違う思いを持っていて、非常に難しい問題だと思う。一番はじめに「窮屈」という話題があったが、これには2つの側面があると考えている。1つは、一人ひとりに寄り添った教育をする時の、1学級の人数の問題。これは、今は1学級35人以下ということで、どの学校でもほぼ同じになっている。だから、一人ひとり細やかな指導ができる。  
もう1つは、学級数が増えたときに教室の数が足りなくなる問題。教室が足りないということであれば、単純に増築する方法なども考えられる。30学級が過大規模校にならない上限という話があったが、これは必ず守らなければならないものなのか、それとも努力義務なのか、それによっても話が違ってくる。

児童数の推移のグラフを見ていくと、しばらくは30学級が続くけれど、その後はまた学級数が

減つていいっている。そうすると、慌てて通学区を見直さなくとも、何とか工夫によってやりくりできないか等、そんなことを考えている。

色々な問題があるが、最終的に一番大事なのは、どのような方法が子ども達のためになるかということだと思う。

- ・皆様からの御意見ありがとうございました。

様々な意見を出していただいたが、皆さんと共に理解をもつべき所については、きちんと共通理解を持ちながら進めていきたいと思っている。

まず、最初に決めた学校規模が、ある意味破綻してしまった中で、どうしてせっかく学校を分けたのに、10年でまた子どもたちを転校させなければいけない状況になってしまったのか、ということは、恐らく市民の皆さんみんなが疑問に思っていることと思う。そのような中で、二の轍を踏まないようにするため、なぜそうなったかということは調査をしていかないといけないと考えている。

また、岩村田小学校が、本当に200人程度の児童を受け入れた場合、学校が本当に運営できるのかということもしっかり考えていかないといけない。それから、本当はどの地域でどのように人口が増えていくかについても、厳密に見ていく必要があると思う。

更に、「窮屈」の意味について、近年は特性を持つ子どもが増えている中で、全国的には小学校では10人に1人が特性を持つ子供となっている。すると、もし将来佐久平浅間小学校が1,000人規模の学校になってしまったとしたら、特性を持つ子どもも100人いるということになる。そのような中でも、子どもたちの特性を生かしてあげながらよりよく伸びていくことを考えていかないといけない。そういう時代なので、そのような教育を行うときに、どのように教室を揃えたり、先生方を増やしたり、先生方が増えるなら駐車場をどうするか等、そういうことをこれから議論していきたいと思う。今日の会議ではそのための課題を頂いた。

調査については、今後一緒にお願いしたいという要請があるかもしれません、一緒にこれから進めていきたいと思うので、よろしくお願ひいたします。

### <（3）今後の進め方について>

- ・今後の進め方については、本日いくつかのテーマが出てきたので、私の方で整理をさせていただき、それを事務局と相談して、次のテーマについて皆さんと議論をしたいと思います。

会議事項終了 20：30